

不祥事ゼロに向けた取組【一人一人が「自分事として考える」】R.6.8.9

(文責 大子町立依上小中学校長 石川 真裕美)

学校は児童にとって多くのことを学ぶ大切な場所です。そのため、児童にとって安全・安心な場所ではなくてはなりません。私たち教職員は、教育活動は、児童や保護者、地域の皆様の信頼のもと成り立つものと考えています。

しかし、日々の報道でもあるように教職員の不祥事が続いています。本校では、このことを他山の石とせず、すべての教職員が、不祥事を自分事としてとらえ、自分の行動が教育全体に影響することを強く意識し、不祥事ゼロに向けて、行動していきます。

1 令和6年度コンプライアンス研修年間計画

月	研修内容	担当	月	研修内容	担当
4	・ 服務規律の確保	教頭	9	・ データ（個人情報）の保護	2・3年
5	・ 懲戒処分について	教頭	10	・ 交通事故・スピード違反	1年
6	・ 体罰・不適切な指導	生徒指導主事	11	・ セクハラ・わいせつ・パワハラ	教務主任
7	・ 教職員による盗撮等の根絶に向けて	教頭	12	・ 飲酒運転の根絶	6年
8	・ 公金等の適正な処理	学校事務	1	・ 児童・保護者への適切な対応	養護教諭
	・ 人権教育研修	5年	2	・ 個人情報の扱い	教頭

○ コンプライアンスセルフチェックシートを活用した管理職との教員面談（5・10・1月）

2 教職員による不祥事根絶に向けた研修の様子（R6.7.23）



3 研修資料

茨城県教育庁「One IBARAKI 第15号」

4 教職員の意見等

- ・ 法整備が進む中、いまだに盗撮行為が横行していることを改めて実感した。教職員としての立場や環境を悪用した盗撮等の事例も挙げられていて、自分の身近でも起こりうるということという認識をもたなければならぬと感じた。
- ・ 学校は、児童生徒にとって、安全・安心な場所でなければならない。勤務時間内外に関わらず、公務員として、今後も自覚と責任のある行動をしていきたい。
- ・ ほんの一瞬の出来心で、すべてを失ってしまう怖さを感じた。にもかかわらず行動してしまう心理は理解しがたい。何か心に抱えているものがある時に、相談できる雰囲気作りも大切なことだと思う。

5 対策内容

- ・ 更衣室等には物を置かず、見通しのきく教室環境を維持する。そのために、室内の点検を複数で行う、使用前の巡回等を強化する。
- ・ 同僚の言動に違和感があるときに、同僚に対して言葉をかけることができる関係づくりと、管理職等へ相談しやすい体制づくりに努め、適切に対応する。
- ・ 教職員の情報モラルや人権教育についての研修を実施し、一人一人が自分事として課題に取り組む。
- ・ 児童が誰にでも相談しやすい環境をつくるとともに、自分自身を守る意識を育てる教育を推進する。